

同ノ趣聞届候事 七月十八日

履歷書

神奈川縣士族
山口勝直男

山口辰彌

安政三年丙辰十二月生
九年七月十八年七月

壬申八月十二日

一造船寮技術二等見習下級申付候事

工部省

同九月十九日

一主船寮十五等出仕申付候事

海軍省

明治六年七月廿日

一補主船寮十四等出仕

海軍大丞真田庵奉

海軍省照會 史官宛

正第百四十三号ヲ以テ本月十三日付主船寮十四等
 出仕山口辰彌儀佛國留學申付度段伺出候処右ハ佛
 國シエルプール港ニ在ルアンジニヨールヲ教育ス
 ル海軍學校ヘ入學為致度見込ニ有之同學校ハ當夏
 休業後來ル十一月一日ニ開校ノ趣ニ付夫レ迄ニ同
 所ヘ罷越必ス開校ノ節ニ入學不致候テハ甚不都合
 ノ由且右入學欲遣ニ付テハ前以夫々取扱ノ都合モ
 有之候間前申出ノ儀ハ至急裁可相成候様致度此段
 御依頼申進候也 七月十七日 海軍

大蔵省へ達

別紙海軍省伺主船寮出仕山口辰彌佛國留學ノ儀朱

書ノ通及指令候條此旨為心得相違候事 七月十八日 海軍
第二科議案 大史歴查

別紙海軍省伺主船索出仕山口辰彌佛國留學申付度
トノ儀ハ何等支障モ不相見候ニ付御許可相成可然
哉仍テ左取調此段相同候也 七月十五日 海軍

一月十日 十年

鹿兒島縣士族米國自費留學生徒市來勘六ヲ海軍省官
賞生徒トス

海軍省上請

鹿兒島縣士族

市來勘六

右ノ者儀先年来自費ヲ以テ米國留學罷在候家本人
儀海軍學修業志願ニ付其才學試ノクメ當時從學罷
在候教師ハ照會候家別紙譯文ノ通り回答ノ趣ニ有
之素行上ニテイテモ往々用立可申者ニ付海軍生徒
被命可然旨尋吉田全權公使ヨリ保薦ノ次第ニ有之
就テハ魚テ該國政府ハ依頼イタレ居候アナカリ
海軍校ニテイテ當省生徒修業ノモノ即今又員ニ